

命を守るための3ヶ条

災害から大切な命を守るためのポイント

●積極的に情報を収集する

避難をするためには、気象などの情報を収集することが必須です。テレビやラジオ、インターネットなどから積極的に情報を収集し、自分にとってのべき行動を判断しましょう。

●浸水や土砂災害が発生する前に行動する

浸水が始まってからの屋外への避難は大変危険です。避難中に災害が発生して被害にあってしまうケースもあります。行動が遅れたら無理に屋外へ避難することはやめて、自宅2階など身近な高い場所へ避難しましょう。

●避難したけど災害が発生しなかったらラッキーと思う

早めに避難して、浸水も土砂災害も発生しなかったとき、損をした気持ちになるかもしれませんが、ものは考えようです。実践的な避難訓練ができてラッキーだったという発想も大切です。

一番避けたいのは、前回避難して何も起きなかったから、今回もきっと何も起きないと考え、避難せずに被害にあってしまうことです。

避難に役立つ方法を知っておこう

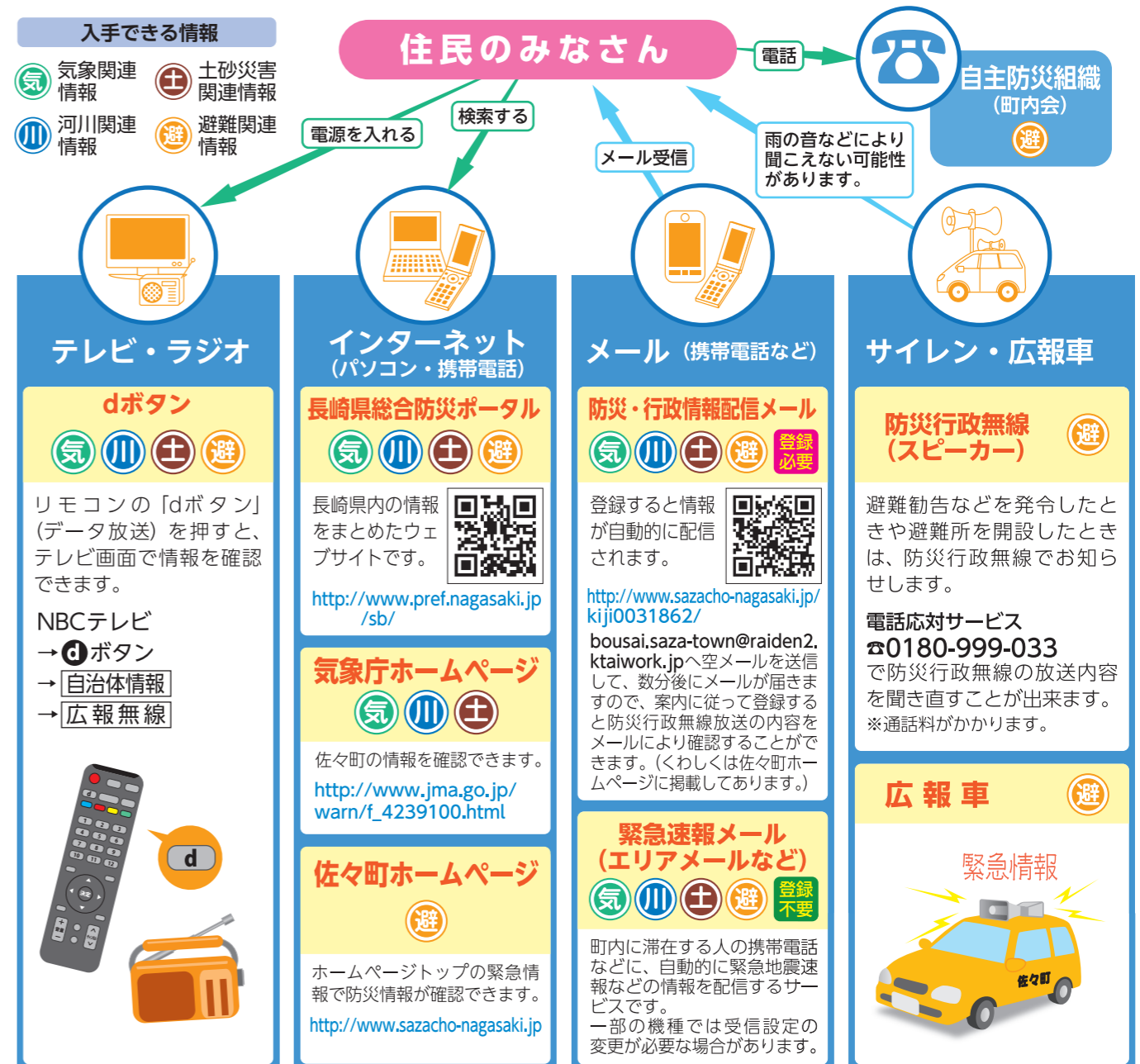
避難に役立つ情報とは？

大雨時に発表される情報の種類と意味を知っておきましょう。

気象情報	河川水位情報	避難情報
特別警報 さらに重大な災害が起こるおそれ著しく大きいときの情報		避難指示(緊急) 洪水・土砂災害などにより著しい危険が切迫しているときに出される情報「避難勧告」より強い意味で発令
警報 重大な災害が起こるおそれがあるときの情報		避難勧告 安全のため、早めの避難をうながす情報
注意報 大雨や強風などによって災害が起こるおそれがあるときの情報		避難準備情報(高齢者など避難開始) 高齢者などで移動に時間を要する人とその支援者は避難を開始し、その他の人は、速やかに避難ができるよう準備をうながす情報
	土砂災害情報	
	土砂災害警戒情報 土砂災害の危険性が高まっているときの情報	

どうやって情報を入手するの？

情報源によって、入手できる情報が異なります。各情報源から、どの情報が入手できるか確認しておきましょう。

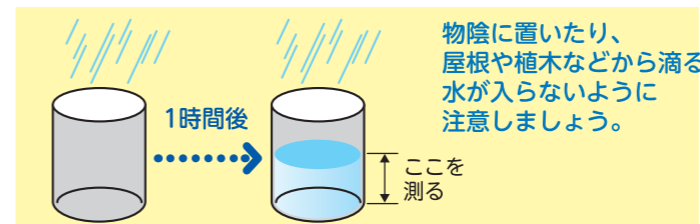


自分でも降水量を測ってみよう

天気予報でよく聞く「降水量〇〇ミリ」は、降った雨が溜まった場合の深さを表しています。

- 円柱形の容器 (コップなど) を外に置いて雨水を直接受ける。(※容器の大きさは関係ありません)
- 1時間後、ものさしで溜まった雨水の深さを測る。

出典：気象庁ホームページ



佐々町での観測史上最大雨量

10分間降水量	33.4mm	1967年7月9日
1時間降水量	125.1mm	1967年7月9日
1日降水量	371.8mm	1957年7月25日